



飯かご(竹本善春)
足付かご(小橋元)

青竹と生きて65年 竹本善春さん(日南町)

戦後、復員してから竹細工を始めた竹本善春さんは、90歳の現役職人。かご作りは力仕事で繊細な作業ですが、竹本さんの見事

術を磨き続けている匠です。池口さんが主に扱うのは、何十年、何百年と民家の煙で燻された煤竹。「切り口が命」という煤竹の加工には熟練の技術が不可欠です。「廃品同様になった煤竹を芸術品に生まれ変わらせるのがやりがいですね」と池口さん。心を込めて作った作品を、倉吉白壁土蔵群・赤瓦三号館竹蔵にて展示販売しています。



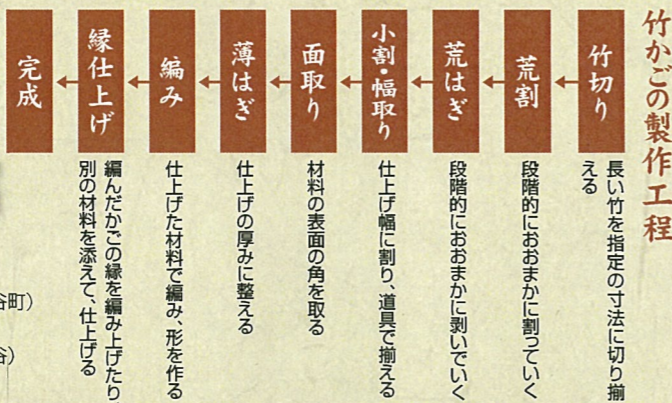
船岡竹林公園(八頭町)
国内外の珍しい竹と笹約200品種が生い茂る。入園無料。(冬季12月~2月は休園)
電話 0858-73-8100

かつて私たちの生活に密着していた竹細工。近年では生活様式の変化や安価な外国製品の輸入などにより、国産竹製品はほとんど使用されなくなりました。手入れされない竹林は荒れ、山林を浸食する被害なども問題になっている。今、改めて竹細工の価値を見つめ直し、匠の技に触れてみませんか。

な手さばきにはただただ脱帽。「とにかく、こさえること」と淀みなく作業は進んでいきます。上達の秘訣を伺うと「悪さするとうまくなるだ」と、試行錯誤の工夫が技を磨いていくことをさりげなく教えてくださいました。「この間はキノコかごを作ったな。修理もするよ」。生活に必要なかご作りの技術が今も息づいています。



- 1 小橋の竹かご(鳥取市元大工町)
- 2 仁人竹工房(鳥取市末広温泉町)
- 3 竹豊工芸(鳥取市東品治町)
- 4 創作工芸中野竹藝(倉吉市東仲町)
- 5 竹工芸山際(倉吉市余戸谷町)
- 6 竹本善春(日南町神福)
- 7 船岡竹林公園(八頭町西谷)



縁仕上げ



荒割



竹切り

詳しくは...

- とりネット
「ととりの手仕事」(手仕事全般)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/teshigoto>
- 「ととりの工芸品」(伝統的工芸品)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=95598>
- パンフレット「鳥取の手仕事」
(鳥取県市場開拓室発行)をご覧ください。

問合せ先 県庁観光政策課
電話 0857-26-7237



安来節で使うかごを作る竹本さん
昔は、米とぎざらとして使われた

鳥取の手仕事

伝統の技と新たな挑戦

鳥取県の竹細工 [第11回]

弾力性に富み、耐久性に優れている竹は、古くからさまざまな用途に利用されてきました。鳥取県では、主に庶民の生活に密着した日常道具から花器、茶道具などまで作られてきました。その技術を今でも継承している伝統工芸士を紹介します。

古代から活躍していた竹細工

「竹」は縄文時代から、かごなどの材料として使われ、今でも身近な植物のひとつです。昭和中期までは、竹細工は生活必需品を作る産業でした。

「米とぎざら」「味噌こし」「竹ぼうき」など日常生活に使うものから、華道や茶道では、花かご、茶筌、茶杓などの工芸品的な道具としても発達してきたほか、農業や漁業でも、運搬用かご、桑かご、魚かごなどに利用されてきました。また、花器やステッキなどは、アメリカなどへ盛んに輸出された時期もありました。

江戸時代から竹かご屋 小橋の竹かご(鳥取市)

江戸時代後期、小橋家の祖先は、池田家とともに鳥取に移住した武家でしたが、幕末から和傘の骨作りを始め、さらに神戸でかご作りを習得したそうです。大正時代頃からは「カゴハン」の名で親しまれていました。五代目の小橋元さんは、大学でデザインを学んだ後、家業を継

ぎ、父・磐雄さんと自社工場の職人たちから、工房経営、ものづくりの精神、技を学びました。近年は、照明や店内装飾などまで広く手がけています。

創作工芸の探求 竹豊工芸(鳥取市)

小笹努さんは、20歳から修行し、その後独立。特に茶道具や花器を得意とし、煤竹など名竹を使った作品を製作しています。花かごづくりの修行のため、名人に師事し匠の技を習得したり、独学で工夫したり、研究に余念がありません。竹の素材感や曲線美を大切にし、心温まる手仕事に励んでいます。

直営店を切り盛りする妻・知子さんと、二人三脚で竹製品をお客様に届けています。

丸竹曲げの継承 竹工芸山際(倉吉市)

山際英康さんと康彦さんは、兄弟で工房を営んでいます。高度な丸竹曲げの技術は、根曲竹、黒竹、ゴマ竹などを使って、茶室などの飾り窓

を作っていた父親譲り。昭和30〜40年代は、この丸竹を曲げて作った飾り窓が飛ぶように売れ、睡眠時間も削って製作したそうです。竹で作れるものは何でも挑戦しよう、と、茶道具、照明から竹の筆や尺八・横笛など楽器まで創作する山際さん。笛作りの名人だった祖父の血筋もしっかりと受け継いでいるようです。

煤竹を活かす繊細な技 池口栄太郎さん(倉吉市)

池口栄太郎さんは、高校卒業後中野竹藝に入社し、55年間技



花入(山際康彦)

花器(池口栄太郎)

手付洗(山際英康)

花籠(小笹努)